

様式(細則 5-2)

平成23年 2月12日

浜田市議会議長 牛尾 博美 様

議員名 佐々木 豊治



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成23年 2月10日(木) ～ 11日(金)の2日間

2. 研修内容

新しい学びプロジェクト

市町村と東京大学による協調学習研究の初年度の報告会

3. 研修先

福岡県福岡市の九州大学内に於いて

3. 調査経費 14,124 円

(経費内訳 交通費 ガソリン代 4,234 円 高速道路代 4,990 円
宿泊代 4,900 円 報告会参加料は無料)



5. 調査研究活動の概要

このプロジェクトは「東京大学の研究知を学校現場での実践に移したもの」で、22年度(初年度)は、全国で九つの教育委員会(自治体)が取り組まれております。

これまで学校現場においては、理論的に開発された授業が行われておらず、この理論知と実践知の協働作業が「協調学習」と呼ばれる「新しい学びプロジェクト」とされております。目指しているのは「子どもたちが自分なりのわかり方をつかみ、まだわかっていないのはどこかに自分で気づき、その不足分を埋めて理解を深めながら次に知りたいことを自然に見つけて行く学び」とされています。すなわち、教師が答えを差し出すのではなく、子ども同士が自分たちで考えてひとりひとりの納得のゆく答えを出し、その答えを使って次の問いを引き出してい

けるようにする、学びの主権を子どもたち自身にゆだねる学習とされています。さらに、知的なたくましさを育て、たくましが生きるための雰囲気を作り、コミュニティづくりを目指しているとのことでした。

研究機関を平成22年度～23年度の2年間とされ、研究教科としては国語科、社会科、算数・数学科、理科の4教科し、参加する市町村教育委員会の学校からの教諭を「研究推進員」とされた。各教科ごとに東京大学の指導のもとに研究を進める方法で、大学にも定期的に集まりながら、授業の実践が進められてきておりました。

1日目は研究推進員であり、実際に授業に携わってこられた教諭が各科ごとに3人から4人のチームで実際の授業風景などを映しながら、発表をされていた。各教諭とも、良い面悪い面、とまどった点や、苦勞した点、疑問点など合わせて発表されていました。

2日目はこのプロジェクトを実際作っている、大学の「大学発教育支援コンソーシアム推進機構（COREF）の職員が授業の解説を加えながら、発表されていました。

当日の参加者は教諭か教育関係者と思われるがほとんどで、浜田市からも教育委員会の指導主事が参加されておりました。

今後の研究結果もさらに注視しながら、このプロジェクトを研究したいと思います。